

戦没者の慰霊顕彰と千鳥ヶ淵戦没者墓苑

(公財) 千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会
常務理事 古 賀 英 松

本日は戦没者の慰霊顕彰と千鳥ヶ淵戦没者墓苑ということで
皆様にお話出来ますことを大変うれしく思っております。

先の大戦に於ける戦没者と慰霊追悼

1 国内外における戦没者数

(支那事変以降に於ける国内外に於ける戦没者
軍人・軍属に限らず戦災死者等を含む)

国外	240万人	軍人・軍属	210万人
		一般邦人	30万人
		(沖縄、硫黄島含む)	

国内	70万人	空襲、原爆
----	------	-------

2 戦没者への慰霊・追悼等

国策により戦火が交えられ、又命令により戦場に赴き
犠牲となった人及び戦災等により殉じた国民を慰霊、追
悼及び遺族の援護は国の責務

ところで戦没者につきましては、「先の大戦」、即ち 1937 年の支那事変以降、1945 年の終戦までを先の大戦としてこの間に亡くなられた、戦没者についてこれからお話したいと思います。この間、国内外における戦没者は軍人、軍属に限らず邦人の方も含めて、国外では 240 万人、その内軍人、軍属が 210 万人、一般邦人 30 万人で沖縄島、硫黄島を含めて算出しております。

それから国内において空爆とか原爆により亡くなられた方が 70 万人。したがって国内併せて 310 万人の方がお亡くなりになったということでございます。本当に悲惨な戦闘が行われたわけです。

それらの方々への戦没者への慰霊、追悼ということですが、国策により戦争が開始され、戦火が交えられ、又命令により戦場に赴いた軍人、軍属等、そしてこの間、戦火に遭い、犠牲となった人々を慰霊、追悼し、遺族の援護をすることは国の責務であり、又国民としても戦没者を追悼することは当然のことです。

戦没者の慰霊追悼行事と施設

1 政府が行う慰霊行事及びその施設等

- ・ 全国戦没者追悼式 昭和27年～、天皇皇后両陛下ご臨席
場所: 武道館、先の大戦に於ける国内外の全死没者の追悼
- ・ 慰霊巡拝 昭和51年～
海外の主要戦場地域等を訪問、合同追悼式の実施、
- ・ 慰霊碑の建立等
旧主要戦場地域の中心に慰霊碑の建立、既設の慰霊碑の管理

2 靖国神社

- ・ 遺族会、戦友会を始め日本人の戦没者に対する慰霊追悼の中心的存在
- ・ 招魂社: 国事に殉じた人を奉安、1869年創建、終戦まで国家護持
- ・ 先の大戦の戦没者の霊を合祀、現在246万柱を合祀

3 護国神社

- ・ 全国、各県等に所在する元の招魂社、各県等戦没者の慰霊行事

4 軍人墓地

- ・ 国内82カ所(陸軍 75・海軍7)、日露戦争、日清戦争、大東亜戦争の戦没者の遺骨埋葬
- ・ 戦後管理を中央から地方自治体に移管



全国戦没者追悼式の模様

当初、政府等が行っている慰霊行事及びその施設ということでお話しますと、行事としましては、最大の行事は全国戦没者追悼式、これは昭和 27 年から天皇皇后両陛下ご臨席のもとに、8 月 15 日に武道館で行われるようになっていきます。これは全国の戦没者遺族の方をお招きし、国内外を問わず先の大戦で亡くなった方、全戦没者に対して慰霊、追悼を行う行事であります。ここで全国戦没者追悼式について若干説明いたします。全国戦没者追悼式というのは昭和 27 年に第一回を行いました。昭和

天皇皇后両陛下がお出でになりました。そのあと、昭和 34 年、千島ヶ淵戦没者墓苑が創建された 3 月 28 日に第 2 回目の戦没者追悼式が行われました。当時は毎年行っていたわけではありません。その後は、天皇陛下皇后陛下御臨席のもとに毎年 8 月 15 日に行うということを閣議決定しまして、昭和 38 年に第 3 回が行われました。第 4 回目は翌年昭和 39 年、場所は靖国神社で行われました。第 5 回目以降は昭和 40 年「戦没者を追悼し、平和を祈念する日」の閣議決定が行われ、場所を日本武道館、天皇皇后両陛下のご臨席、8 月 15 日に開催ということが決定されました。以来全国戦没者追悼式は 8 月 15 日、天皇皇后両陛下陛下御臨席のもと、武道館で行うということで、毎年行われております。

慰霊巡拝・現地慰霊・合同追悼



現地慰霊 (ミャンマー・モールメン)



現地慰霊 (旧ソ連・ハバロフスク)

その他に国としては海外各地域への戦没者慰霊巡拝の事業がおこなわれておりますが、これは昭和 51 年度から開始され、海外の各主要戦場に毎年厚生労働省が主催し開催する場所を決めて遺族の方をお連れして現地で行って追悼行事を行っております。戦場における慰霊巡拝、現地慰霊合同追悼を毎年 4～5 カ所行っております。

その他、未だ収容が行われず遺骨が残されているような各主要戦場においてはその中心となるような場所に慰霊供養のために慰霊碑を立てております。

各主要戦場、特に戦没者慰霊碑を建立しておりますところは。硫黄島、インド、インドネシア、ミャンマー、パラオなど主要な戦場地域の中心となるようなところ、世界に 15 カ所、建立されまして、厚生労働省が維持管理をしております。その他にはそれぞれの現地の人たちが作った慰霊碑も

あります。又当時の戦友達が現地に出かけて作った慰霊碑というのもあります。そういうところも政府が資金を出して、維持管理を行っております。

しかし、終戦後 70 年を経過しまして、現地の貴重な慰霊碑も管理が十分に行われず荒廃してしまっているようなところもあるようですが、そのような慰霊碑等を把握するため、厚生労働省により現地調査が行われて処理が行われているようです。

戦没者慰霊碑の建立



日本人死亡者慰霊碑（ロシア連邦・ハバロフスク市）



沿海地方小規模慰霊碑

- ・主要戦域ごとに中心となるべき地域に戦没者慰霊碑と平和への想いを込めて建立
- ・現在 15 か所建立（硫黄島、インド、インドネシア、マレーシア、マーシャル諸島、モンゴル、ミャンマー、パラオ、フィリピン、パプアニューギニア、ロシア、サイパン、アッツ島等）

次に先の大戦の戦没者慰霊の重要な施設が靖国神社でございます。これは皆様よくご承知のとおりです。戦没者の慰霊のため連日、日本各地から遺族会を始め多くの方々が参拝に訪れています。

靖国神社は当初、招魂社と申しまして、国事に殉じた人を奉安するという目的で、1869 年に創建をされました。終戦までは、国家の護持のもと戦没者の慰霊の中心的施設として存在して、国民の戦没者慰霊の心のよりどころでありました。これは現在も変わらないと思われます。先の大戦の戦没者を含めて、現在 246 万柱が合祀をされています。一方で戦後は、国家護持も 1945 年、終戦、敗戦と共に米国の占領政策のもと靖国神社の国家管理は中止させられました。

遺族等一般国民としては総理大臣も天皇陛下も公式に参拝出来ないような現在の状態に大変残念な気持ちであることに違いはありません。

その他、戦没者の慰霊のために護国神社というのがございます。これはかつて国により各県等自治体に造られたもので、いわゆる地方の招魂社です。現在は各県等に於ける戦没者慰霊行事の中心となる施設、国に殉じた

人をおまつりするところのひとつであります。しかし護国神社の本来の慰霊行事も現在は様相が変わっているのではないかと思います。

それから各地には軍人墓地というのがございます。これは明治時代に造られまして全国 82 カ所（陸軍 75、海軍 7）、日露戦争、日清戦争、大東亜戦争等々の戦没者の遺骨を埋葬して慰霊追悼をやっていました。しかしながら、ここも当初は国家管理でありましたが、これも GHQ の命により国家管理が不可能になりまして管理を地方自治体に移管しました。地方自治体は国から移管されて、予算的にも、維持管理に困ったようで、墓地が公園と化したり、地方自治体の手を離れて、他の目的に使用されたり、或いは荒廃しているようなところも少なくないようです。ところによっては、清掃なども予算がないということで地域住民、或いは周辺の篤志団体等の清掃奉仕に任せるということになっているようなところも少なくないようです。



千鳥ヶ淵戦没者墓苑 全景



六角堂



陶 棺

次に千鳥ヶ淵戦没者墓苑についてお話をしたいと思います。ここは国立の先の大戦に於ける戦没者慰霊追悼の施設でございます。

ここは昭和 34 年創建、ここで新たに国家としての先の大戦の戦没者の慰霊行事を行っております。

写真をご覧ください。戦没者墓苑の全景と、墓苑の主屋である六角堂、これが中心施設でございます。

六角堂の真ん中に陶館があります。

陶棺は古代豪族の寝棺であり、これは備前焼で作られています。

その中に天皇陛下から下賜された金銅製の骨壺がございます。陶棺のなかには海外主要戦場で収容された戦没者のご遺骨が象徴的に納められてお

ります。収容された全体のご遺骨は六角堂の地下が納骨室になっておりここに逐次お帰りになるご遺骨がお祀りされております。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑建立の経緯等を申し上げますと、終戦直後戦友に抱かれて帰還した御遺骨や、昭和 25 年には、フィリピンから米軍により 4,800 柱が帰って来たり、又海外に多くの遺骨が残されている状況に鑑み、当時、遺骨収容が必要だという国民の世論が高くなってきました。そして遺骨が、帰って来れば遺骨の埋葬、墓苑が必要となりそのための施設の創建が急がれました。

昭和 27 年に平和条約が結ばれて、統治が日本政府により為されるようになり吉田内閣の時に、遺族の判明しない、お名前のわからないご遺骨を納める施設を造らなければならないということで、閣議決定をし、千鳥ヶ淵戦没者墓苑が創建されたわけです。又全日本無名戦没者合葬墓建設会が設立されて、募金活動が始まったり、そのような中で、28 年になって墓苑創建の閣議決定がなされました。

墓苑の施設の概要について紹介しますと、閣議決定があつて墓苑が創建されました。東工大の谷口博士が設計されています。面積 1600 万平方km。だいたい後樂園球場の 1.2 倍ぐらいです。

墓苑の設計の方針としては簡素、清浄、荘厳、使用材はすべて国産。植樹も全部日本の武蔵野の木を持って来る。今、墓苑は常緑樹が主体で、約 4 千本あります。日本産のもので、緑でいっぱいにして、素朴で質素にしようということです。ここは無宗教でございます。

墓苑の建設

- ・ 竣工式 昭和34年3月28日
- ・ 設計 谷口吉郎氏
- ・ 面積 1, 6百万㎡
- ・ 墓苑の本屋・六角堂の地下1, 2, 3階が納骨室
- ・ 陶棺 墓苑のシンボル、日本古代豪族の寝棺を模した
陶製の棺、備前焼、各戦域の土、石、を使用、備前焼(重さ5トン)、
- ・ 下賜骨壺 天皇陛下ご下賜の骨壺、高さ28, 6cm
象徴的に各戦域の戦没者の遺骨が納められている。
- ・ 造園 設計方針:簡素、清浄、荘厳、使用材は全て国産
- ・ 植樹 常緑樹主体、樹木総数4千本、武蔵野に縁ある物

墓苑竣工式の時には昭和天皇がお出でになりました。

昭和天皇は「先の大戦に際し、身を国家の危急に投じ、戦陣に倒れた数多くの人々と その遺族を思い、常に哀悼の念に堪えない。本日、この戦没者墓苑に 臨み、切々として胸に迫るものがあり、ここに深く追悼の意を表する。」というお言葉を発せられております。

昭和 34 年 3 月 24 日が墓苑創建竣工式であります、この日に併せて、第 2 回目の「全国戦没者追悼式」が行われております事は先に述べたとおりです。

戦没者墓苑に於ける慰霊行事等

- 1 厚生省主催
 - ・千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式
遺骨収集で収容されたご遺骨の納骨及び戦没者に拝礼
 - ・ 遺骨引き渡し式
- 2 奉仕会主催 秋季慰霊祭
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会主催、昭和35年以来
先の大戦に於ける全戦没者の慰霊顕彰
- 3 各団体による慰霊行事及び参拝
各宗教団体、千代田区、篤志団体、遺族会、戦友会、清掃奉仕
- 4 外国高官、軍人及び国内要人等の参拝
- 5 陸海空自衛隊の参拝、
秋季慰霊祭参列、 遠洋航海部隊の出航前の参拝
- 6 防衛大学校学生の参拝
- 7 献茶、献花の奉仕
献花：昭和44年以来、献茶：昭和58年以来

戦没者墓苑では各団体等による慰霊行事が行われております。厚生労働省が主催しております拝礼式、これは海外で収容されたご遺骨の納骨の儀式等であります。同じく厚生労働省主催の、遺骨引渡式、これは海外で収容された御遺骨がまず千鳥ヶ淵にお帰りになって遺骨収集帰還団から厚生労働省に遺骨が引き渡される遺骨帰還の行事です。

その他、昭和 35 年以来、奉仕会が秋季慰霊祭を行っております。先の大戦の全戦没者の慰霊顕彰、追悼の行事であります。

千鳥ヶ淵ではその他、各奉仕団体、各宗教団体、各公共団体、各篤志団体等々によるいろいろな多くの慰霊行事が年間を通して行われております。それから陸海空自衛隊の参拝、外国の高官等が多数参拝をされます。その他、墓苑に於いては華道員研究部による生け花の献花、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕茶会による春、秋の茶会が行われます。

以下拝礼式から行事の状況を細部説明します。

平成27年度拝礼式

- 1 日時 平成27年5月25日
- 2 趣旨 遺骨収集帰還事業で新たに収容したご遺骨で遺族に引き渡すことの出来ないご遺骨を納骨、併せて墓苑に納められているご遺骨に拝礼
- 3 式次第 国家斉唱、式辞、納骨の儀、皇族殿下御拝礼、参列者献花等
- 4 参列者 皇族殿下、総理大臣、各省庁大臣、遺族会、戦友会、駐日大使等、各団体
- 5 納骨数
 平成27年度 : 2,498柱
 墓苑内合計数: 362,569柱



納骨の儀



ご遺族の献花



秋篠宮同妃両殿下ご拝礼



安倍総理大臣献花

厚生労働省が主催する拝礼式について

拝礼式とは、海外で収容されたご遺骨を墓苑に納骨する事並びに収容されているご遺骨に対する拝礼の目的で行われます。式典には皇族殿下、総理大臣、各省庁大臣が参加され国を挙げての千鳥ヶ淵における儀式でございます。平成27年度は5月26日に行われ、2,498柱が納骨されまして、現在の墓苑内の総計は362,569柱でございます。

拝礼式では厚生労働大臣が御遺骨を受け取って地下に納骨をする儀式が行われ、その後、皇族殿下の拝礼黙祷、総理大臣の献花、等が行われます。今年度皇族殿下は、秋篠宮同妃両殿下がお出でになりました。

遺骨引渡式（7月29日）

- 1 旧ソ連（イルクーツク州・沿海地方）
抑留中死亡者遺骨収集帰還団の帰還
- 2 帰還遺骨数
イルクーツク州 76柱
沿海地方 42柱
- 3 派遣団員
遺族民間協力者 6名 7名
日本会 4名 4名
全国強制抑留者会 2名 1名
JYMA 2名 2名
- 4 派遣期間 7月14日～7月29日（16日間）
- 5 旧ソ連抑留中死亡者遺骨収容数 17,983柱
（27年7月22日現在）

次に遺骨引渡式についてですが、御遺骨は海外から遺骨が収容されて帰国、すると成田からまっすぐに千鳥ヶ淵に帰ってまいります。

平成27年度の遺骨引渡はハバロフスク、イルクーツク、それからパラオ、硫黄島、ニューギニア、ビスマーク・ソロモン島から遺骨が帰還、此に伴う引渡式が墓苑にて行われました。



遺骨の帰還



遺骨の引渡



遺族の献花



遺骨帰還派遣団

7 月 29 日に遺骨引渡式がございまして、遺骨がイルクーツク、沿海州から帰って来まして厚生労働省に引き渡されました。写真は遺骨引渡式の状況です。遺族収集派遣団員として、遺族会、全国強制抑留者会、日本会など、旧ソ連抑留者に関わるような団体の代表が参加しています。

戦没者の遺骨収容状況ですが、240 万柱が海外で亡くなられておりますが、そのうち、いままでお帰りになった遺骨は 127 万柱。未収容遺骨が 113 万柱あります。海の底に海没された遺骨が 30 万柱ぐらいあります。相手国の事情により遺骨収容が困難な、北朝鮮、中国など、宗教的に遺骨の持ち出しはだめという国もあります。これらが約 23 万柱位あります。したがって 113 万柱の未帰還の遺骨の内、60 万柱ぐらいはこれから遺骨収容の可能性があるということです。

平成27年度奉仕会主催秋季慰霊祭

- ・ 秋篠宮同妃両殿下ご臨場
- ・ 国歌斉唱
- ・ 奉仕会会長式辞
- ・ 献茶の儀
- ・ 昭和天皇・今上陛下御製奉唱
- ・ 秋篠宮同妃両殿下ご拝礼・黙禱
- ・ 総理大臣追悼の字
- ・ 自衛隊部隊拝礼
- ・ 献花
- ・ 参列者ご焼香

次に秋季慰霊祭についてであります、平成 27 年は 10 月 19 日に行われました、秋篠宮同妃両殿下がご臨席されました。



秋篠宮同妃両殿下ご臨場

◇◆◇第 84 回ウォーターフロント研究サロン◇◆◇

多数の遺族会、戦友会の方、全国各地からも一般の参列者があり、今回は 1,100 名の参列者がありました。例年は約 1,000 名弱ですが今回は終戦 70 周年ということで 1 割ぐらい増えたという状況でございます。

式典は皇族殿下のご臨場から始まります。



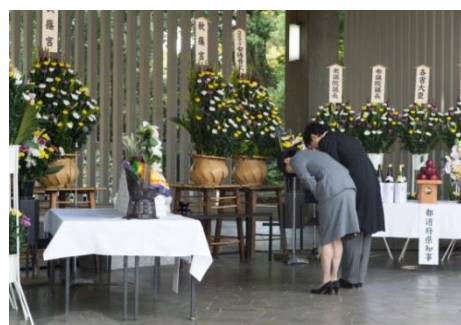
ご参列の来賓

ご来賓としては皇族殿下を始め、閣僚及び政府関係者、政党代表、各国大使、自衛隊代表、その他篤志団体、戦友会、遺族会等の方々が参列されます。

式次第は総理大臣追悼の時、皇族殿下の拝礼・黙祷、自衛隊部隊拝礼、次いで来賓の献花等が行われます。



総理大臣追悼の辞



秋篠宮同妃両殿下ご拝礼・黙祷



自衛隊部隊拝礼



防衛大臣献花



イタリア大使献花

次に各団体による慰霊行事及び参拝についてであります。

墓苑には約 30 個団体により年間を通して慰霊の行事が行われています。

特に春のお彼岸、7 月のお盆、夏、8 月終戦の日及びその前後、初秋の 9 月、10 月頃等慰霊行事はピークとなります。

実施団体は宗教団体、戦友会、篤志団体、遺族会、その他千代田区、厚生労働省、等があります。大小様々な規模の行事がありますが、10 名程度から、3, 4 千名の参列者による行事等主催団体によってさまざまです。

又団体では日本各地から遺族会、戦友会、そして、偕行社、水交会、郷友連等の各団体の参拝があります。



アメリカ合衆国国務長官ジョン・ケリー氏と同国防長官チャック・ヘーゲル氏

次に国内外の要人の方々の参拝ですが、代表的なのは

平成 25 年 10 月ケリー国務長官、ヘーゲル国防長官が日米合同委員会の合間に献花に来られました。千鳥ヶ淵にお出でになったアメリカの要人では最高位の方です。

毎年、終戦の日には総理大臣、政党の

代表の方、各大臣の方、等参拝が多く見られます。自衛隊の部隊参拝もあります。特に慰霊祭では陸海空の自衛隊が部隊参拝します。



海上自衛隊遠洋練習航海部隊

遠洋航海に出航前の海上自衛隊が壮図の安全と目的の達成を祈願して部隊参拝に参ります。

この部隊は訪問先や途中の洋上において慰霊碑を参拝、洋上慰霊祭等を実施しております。

防衛大学の学生が学生の自由意志で 11 月頃、参加者を募って参拝に参ります。



防衛大学校学生の参拝

学生の有志が今年も 300 名ぐらい来ました。女子学生は約 30 名程度です。前の日の昼 12 時ごろ防大、横須賀を出発して冬の夜、寒い中、歩き通して、翌朝 7 時ごろ墓苑に到着、そして、制服に着替えて一同が揃って参拝をします。このあと彼らは靖国神社に参拝をして戦没者の慰霊をやります。若い世代が

自ら、戦没者に敬意を表して慰霊をしてくれるということに敬意を表する次第です。

この他、華道員院研究部の方々が毎週お花を生けてくれます。墓苑が清新な雰囲気になっています。



献花台 生け花



春の茶会 献茶の儀

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、奉仕茶会というのが設立されておりまして、春と秋にはお茶会が開催されます。お茶会当日はまず、戦没者に対して献茶が行われましてそのあと参拝者に対してお茶が振る舞われます。この茶会には一般の参拝客が自由に参加できます。特に春の茶会、献茶式には京都から表千家流の千葉宗立宗匠が毎年お出でになってお手前が披露されます。茶会は春は、4 月第 1 週、秋は 11 月の第 1 週に行われています。

つぎに千鳥ヶ淵戦没者墓苑にあります公益財団法人の千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会について紹介いたします。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会設立の目的等

1 設立の経緯

国としてなし得ること(維持管理)に限界

参拝者への便宜・慰霊行事を行うための法人の設立

2 設立の目的

「戦没者の崇敬に関する思想の昂揚を図るとともに、

国の施策に即応し、千鳥ヶ淵の維持奉賛に任ずる」

3 発足 昭和34年1月14日

奉仕会は千鳥ヶ淵戦没者墓苑の創建と同時に設立されまして、現在にいたっております。設立の経緯としては国としてなし得ること、維持管理等には限界がある。したがって公益財団法人（当時は財団法人）として、民間団体として参拝者への便宜供与・支援を行い、又慰霊行事を行うために法人を設立しなければならないということで作られました。

墓苑には国の機関としては現在、環境省自然環境局（設立当初は厚生省）が建物、樹木の管理を、現在の厚生労働省社会援護局が遺骨の管理等、それぞれの業務を行っております。

参拝者に対するきめ細かな支援については、国として為し得ることに限界があるということで奉仕会が設立された次第であります。

設立の目的は「戦没者の崇敬に関する思想の昂揚を図るとともに、国の施策に即応し、千鳥ヶ淵墓苑の維持奉賛に当たる」ということで千鳥ヶ淵戦没者の墓苑は活動しております。我々はここで先ほど紹介しました奉仕会主催の秋季慰霊祭を行い、墓苑で行われる諸団体の慰霊行事や、団体個人の参拝等に対しての支援並びに墓苑の維持管理の支援・協力を行っております。

それから戦没者崇敬の思想の昂揚という点では、広報誌「千鳥ヶ淵」を発行しています。これはタブロイド判 4 ページで 2 ヶ月毎に 7,000 部発行して、会員等、各都道府県、遺族会、戦友会、関係団体及び参拝者の方々に配布しております。幅広く多くの人たちに戦没者への慰霊顕彰の意識高揚の広報をさせていただいております。

それから、インターネット・ホームページの開設です。これは一般国民向けということです。多数の方、毎日 100 件ぐらいのアクセスがございました。

全国の皆さん方、多くの人に、新聞、インターネットを通じて戦没者に対する慰霊奉賛の意識の高揚を図るということをずっとやっております。

又図書の管理、参拝者に対する情報の提供、墓苑の清掃支援等墓苑の維持管理について支援をしております。

昭和 34 年 3 月 28 日が千鳥ヶ淵墓苑の創建された日でございますが、厳密にはその前の昭和 34 年 1 月 4 日に奉仕会は発足をして体制を整えていた次第です。

最後にまとめであります。戦没者の慰霊・追悼は国家、国民の責務であります。我が国の現在の平和と繁栄の陰には貴い命の犠牲があった。先の大戦でたくさんの方が亡くなられております。そのような戦没者のご加護の上に今の平和と繁栄、現在の安寧があるということを国民に知ってもらいたい。こういう戦争があったということを特に今の若い人に知って貰いたい。そして次の世代に継承していく。戦没者慰霊顕彰の意識昂揚、先の大戦の記憶を風化させない。そのために戦没者の追悼、平和の祈念施設として墓苑が幅広く日本国民に普及広報されることを期待しています。

戦没者墓苑は国立であり、無宗教であり、無名戦没者を奉安し、何人もわだかまりなく参拝が可能な、国民的、恒久的平和祈念施設であります。

終わり